



高台の傾斜を利用した張り出したベランダは、見晴らし台を兼ねて3年前に新設。気持ちいい風が吹き抜けていきます。



バラを愛する園芸仲間も近所にでき、ときどき集まっては情報交換をしているそうです。



10年前に家を建てた直後に鉢植えで買った最初のバラのひとつ「うらら」。いまでも元気に花を咲かせています。



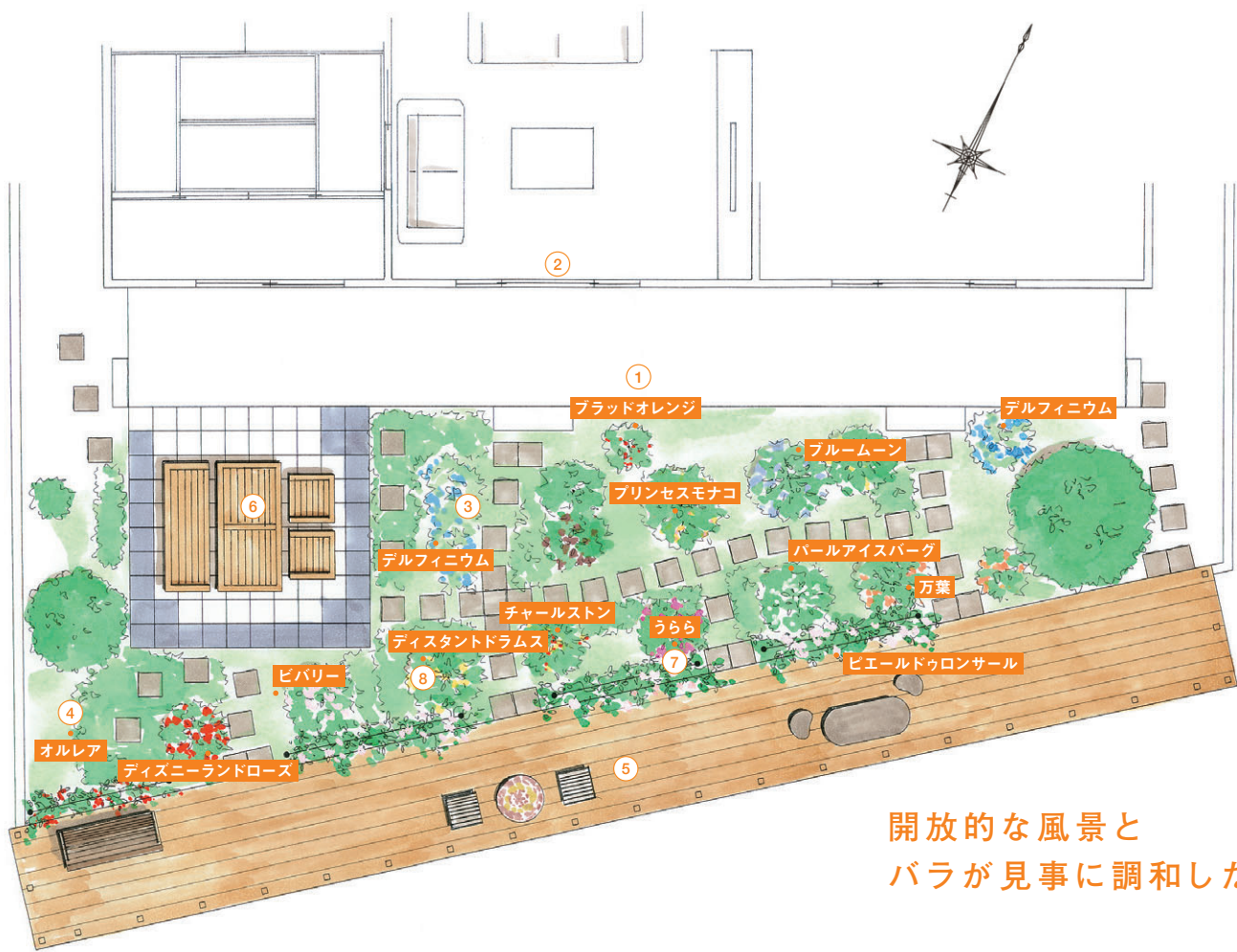
数々の写真コンテストで優勝するほどの腕前を持つ平野さんが撮影したお気に入りのバラ「ディスタントドラムス」。



バラの間に植えられた白いオルレアや紫のデルフィニウムなどの草花が、庭の一体感を演出しています。



①「フェンスにツルバラのピエールドゥロンサールを絡ませて、反対側の斜面の住宅地を巧みに目隠ししていますね」と中山先生。②南東に面したリビングからの眺め。



開放的な風景と
バラが見事に調和した庭。

最優秀賞 大分県大分市 平野敏幸さん



計140点の応募作1点1点を真剣に審査する審査員たち。(各賞と審査員のプロフィール・総評はP28-29で紹介しています)

平野さんと審査員の中山先生(左)。バラの挿し木も地植えです。平野さんの枠にとられない園芸術には、先生も感心しきりでした。

KIZUNA GARDEN CONTEST

第11回「きずなガーデンコンテスト」
結果発表と最優秀賞のお宅訪問。

第11回を迎えた「きずなガーデンコンテスト」は、新たに経年美化部門が設けられ、多数の応募作品から厳正な審査の結果、各賞と入選が決まりました。審査員でガーデンデザイン研究家の中山正範先生と一緒に、最優秀賞に選ばれた大分県の平野さんのお宅を訪ねました。

部屋からの見え方を意識してバラを植栽。

平野さん宅を訪れると待っていたのは、遠くの山々を借景に、色とりどりのバラと草花が風になびく開放的な庭でした。「想像していた以上に、雄大な風景とバラの優雅さが調和した庭ですね」と中山先生。「バラの種類を絞りを、間を草花でつなぐことで、一体感のある庭になっています」と評価されていました。

定年を機に東京から故郷に戻った平野さん。バラを始めたきっかけは建築後に遊びに来た友人の勧めで鉢植えを買ったことでした。「地植えにしてみると、意外に育てるのが簡単。しかもほぼ1年中咲いてくれるのがうれしくて、種類がどんどん増えていきました」。その育て方はあくまでも自然体。「消毒は一切しませんし、気をつけているのは、剪定して風通しよくすることくらい。それでも元気に育つバラの生命力に

も魅せられています。「風景を楽しむ」が家づくりのテーマだっただけに、バラは高さを低めにし、庭に面した3つの部屋から見える花の色合いを変え、各部屋から違った風景を楽しまれています。

目を引くのは、庭の外側の張り出しベランダです。「積水ハウスに施工してもらったのですが、庭が広がり、バラの剪定もしやすくなりました」と笑顔で話す平野さん。庭づくり以外にも写真撮影や陶芸など多彩な趣味の合間に、ここで風を感じ、お茶を飲むのが癒しになっているそうです。